

兵庫県こころのケアセンター 令和6年度実施分に係る
外部評価委員会 業績評価（総合評価）

所 見

当センターは、トラウマ・PTSDなど「こころのケア」に関する五つの機能を有する全国初の拠点施設として2004年4月に設置され、6年度で開設20年となった。研究、人材養成・研修、相談・診療、情報の収集発信・普及啓発、連携・交流の五つの機能を、計画的、効果的、効率的に十分果たしている。

1. 研究面では、県委託による短期研究、長期研究が進められ、外部資金を獲得した多くの研究においても、センターの特色のある研究課題が設定され、着実に成果が出せている。

2. 人材養成・研修については、災害被災、犯罪被害、いじめ、虐待・DV、悲嘆、業務関連ストレス等に関する研修を実施し、目標を上回る多くの参加者を得ている。また、トラウマやPTSDに関する特別研修は、当センターの特色ある企画となっている。

ヒューマンケアの理念に基づく実践事業について、音楽療法士の養成に取り組み、実践普及講座においても多くの参加者があり、受講満足度も高く評価できる。

3. 情報の収集発信・普及啓発について、こころのケア国際シンポジウムが開設20周年記念として開催され、これまでの研究成果に加え、子どもと家族へのトラウマケアなど関心の高いテーマ設定で多くの参加者が学ぶ機会を得た。参加者アンケートでも高評価であった。

4. 連携、交流面では、被災地等へのこころのケアに関する支援が継続して実施された。また、ひょうごDPATの活動においても、常設に向けた研修が実施され、広域的支援の派遣に繋がっていることは評価できる。関西圏域での連携強化にも貢献している。

5. 相談において、相談室開設から20年が経過し、トラウマ・PTSD等の専門性が認識され、地域の医療機関や相談機関との連携が進み当相談室が地域で特色ある重要な役割を果たしていると評価できる。

6. 診療において、受診件数の減少は残念だが、複雑性PTSDや子どものトラウマケアが可能な数少ない専門的診療機関であり、その機能が発揮されていることは高く評価できる。今後の診療体制の強化を願う。

7. 光熱水費、事務的経費の節減、自主財源確保により2,323千円の余剰金を確保したことは特筆に値する。

8. 重要性が指摘されながら、なかなか浸透していかない「トラウマインフォームドケア」の普及啓発が求められ、兵庫県こころのケアセンターがその役割を担っている。

引き続き、現行の理念・方向性を継続していくことが望まれる。兵庫県による、より一層の財政的支援、人的支援、人材育成支援等の配慮が求められる。